



あした 未来へつなぐ

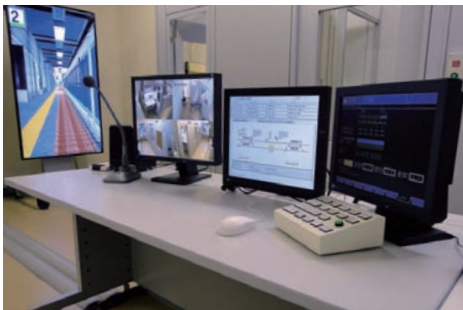
JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

より安全で、信頼される鉄道を目指して 自ら考え行動できる車掌の育成を目的に、 「車掌用シミュレータ」による訓練を実施

平

平成二十三年五月二十七日、石勝線で発生させた「列車脱線火災事故」は、八年以上が過ぎた今も記憶に残る重大な鉄道事故です。

JR北海道では、この事故発生時に迅速かつ適切な避難誘導ができなかった反省に立ち、すべての車掌に向けて「異常時の臨機応変な対応や感受性を高める訓練」の強化を図るとともに、教育環境

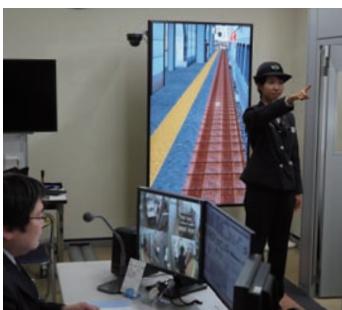


教師卓

の整備に着手。平成二十七年四月には「自ら考え行動できる車掌の育成」を目的に、道内四力所の車掌職場に「車掌用シミュレータ」を導入し、運用を開始しました。

車掌用シミュレータは、「車両モックアップ(模型)」「教師卓」「計算装置」「振り返りモニター」で構成され、五両編成の特急車両に乗務する設定でつくられています。シミュレータの導入により、異常時の確かつ迅速に対応できる判断力と行動力を養うためのより実践的な訓練が可能になりました。

訓練はあらかじめシナリオを設定して行う「プリプログラム方式」と、訓練の指導担当者が訓練項目のシナリオを、異常時対応の状況に合わせて設定しながら訓練を進める「ダイレクト方式」



車掌用シミュレータ訓練風景

の両方を駆使して実施。より多くの事象を模擬体験することで、一人ひとりのスキルアップにつなげています。

最大四つのシナリオを設定できるプリプログラム方式には「踏切事故」「列車火災」「地震・津波避難」「緊急停止手配」など五十パターンが登録されているほか、ダイレクト方式には「非常ブレーキ鳴動」「異音発生」「空調異常」「非常ブレーキ」など十六の項目があるため、両方を組み合わせればさまざまな訓練が可能となります。また、車両モックアップには、車内の座席も再現されており、お客さま対応や新人車掌に向けた基



振り返りモニターでの訓練風景

本動作の訓練にも活用できます。さらに季節、時間帯、天候などを自由に設定できるため、車掌個々人の経験年数や特性に合わせた訓練ができるのも特徴です。実際に異常時に遭遇したとき、どう対処すればよいか、事前に訓練を通して経験できれば、車掌にとって大きな自信になります。なお、シミュレータでの訓練は、全車掌を対象に定期的にを行っています。

JR北海道では、今後も社員一人ひとりが危機意識を持って、安全性向上のための各種取り組みを実行し、安全で信頼される鉄道の実現を目指していきます。

●